

職業実践専門課程の基本情報について

| | | | | | |
|-------------|---|-------------------|---|--------------------|-----------------|
| 学 校 名 | 設置認可年月日 | 校 長 名 | 所 在 地 | | |
| あいち福祉医療専門学校 | 平成14年3月29日 | 熊崎 正実 | 〒456-0002 名古屋市熱田区金山町一丁目7番13号 (電話) 052-678-8101 | | |
| 設 置 者 名 | 設立認可年月日 | 代 表 者 名 | 所 在 地 | | |
| 学校法人 電波学園 | 愛知県/文部省 昭和34年3月31日/ 昭和61年12月23日 | 理事長 小川 明治 | 〒456-0031 名古屋市熱田区神宮四丁目7番21号 (電話) 052-681-2299 | | |
| 目 的 | 本校は、教育基本法の精神に則り、学校教育法に従い、介護福祉に関する基礎教育と専門的実践教育を行い、社会から喜ばれる知識技能と歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、社会に貢献することを目的とする。 | | | | |
| 課 程 名 | 学 科 名 | 修業年限 (昼、夜別) | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 専門士の付与 | 高度専門士の付与 |
| 教育・社会福祉専門課程 | 介護福祉学科 | 2年(昼) | 1952単位時間 (又は単位) | 平成6年文部大臣 告示第84号 | — |
| 教育課程 | 講義 | 演習 | 実験 | 実習 | 実技 |
| | 810単位時間 (又は単位) | 690単位時間 (又は単位) | 0単位時間 (又は単位) | 452単位時間 (又は単位) | 0単位時間 (又は単位) |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 160人 | 141人 | 6人 | 8人 | 14人 | |
| 学期制度 | ■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日 | 成績評価 | ■成績表 (有) 無 ■成績評価の基準・方法について 100点満点で60点以上を合格 | | |
| 長期休み | ■学年始め：4月2日 ■夏 季：7月21日～8月31日 ■冬 季：12月25日～1月10日 ■学 年 末：3月25日～3月31日 | 卒業・進級条件 | 在籍学科のすべての教育課程を履修し、かつ履修科目すべてにおいての審査基準を満たし、所定の出席時間数を確保した者 | | |
| 生徒指導 | ■クラス担任制 (有) 無 ■長期欠席者への指導等の対応 保護者への連絡を密にする | 課外活動 | ■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動 (有) 無 | | |
| 主な就職先 | ■主な就職先、業界 特別養護老人ホーム・老人保健施設 ■就職率100% | 主な資格・検定 | 介護福祉士 レクリエーションインストラクター | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者15名 ■中退率10% 平成24年4月1日在学者148名(平成24年4月入学者を含む) 平成25年3月31日在学者133名(平成25年3月卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、学業不振、経済的、病気 ■中退防止のための取組 正課後の補習、個人面談、教育懇談会(保護者会)の実施、臨床心理士常駐 | | | | |
| ホームページ | URL: http://fukushi-iryo.denpa.jp/ | | | | |

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

医療機関、福祉施設、およびリハビリテーション医療の職能団体との連携により必要となる最新の知識、技術、技能を教育課程に反映させるために、それら機関等から教育課程編成委員会の委員を構成し、学科専任教員の情報収集、研修で得た人材育成のためのカリキュラム情報とともに、専門職業人育成に向け授業科目、授業内容や方法の改善工夫を協議し、教育課程に盛り込むことを基本方針とする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成25年10月1日現在

| 名 前 | 所 属 |
|--------|---------------------------------|
| 鳥山 喜之 | 一般社団法人 愛知県理学療法士会 / 医療法人桂名会 木村病院 |
| 早川 昌宏 | 社会福祉法人長寿会 特別養護老人ホーム シルバーピアかりや |
| 星野 茂 | 蒲郡市民病院 |
| 三輪 大輔 | 医療法人純正会 デイサービスセンター太陽 |
| 熊崎 正実 | あいち福祉医療専門学校 |
| 杉村 行雄 | あいち福祉医療専門学校 |
| 水谷 優子 | あいち福祉医療専門学校 |
| 笥 重和 | あいち福祉医療専門学校 |
| 豎山 陽一 | あいち福祉医療専門学校 |
| 飛田 いく子 | あいち福祉医療専門学校 |
| 下里 充 | あいち福祉医療専門学校 |
| 矢島 親男 | あいち福祉医療専門学校 |

(開催日時)

第1回 平成25年11月30日 13:00~13:40

第2回 平成26年 1月11日 15:00~16:00 (予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

介護実習ⅠおよびⅡをとおして実習指導者との間で個々の実習生の情報の共有と指導にあたる共通認識をもって、実習生個々の実習目標を達成させることを基本方針とする。

| 科 目 名 | 科 目 概 要 | 連 携 企 業 等 |
|---------|--|---|
| 介護実習Ⅰ-1 | 講義、演習、実技実習で学んだ知識や技術を用いて、施設で生活されている利用者の介護の実際を行う。利用者とのコミュニケーションをとり、援助関係を構築して利用者の介護ニーズを捉え、基本的な介護を行えるようにする。 | 通所リハビリテーション施設、通所介護施設、生活介護施設、小規模多機能型生活介護施設、認知症対応型共同生活介護施設(グループホーム) |
| 介護実習Ⅰ-2 | 利用者の個性に応じた基礎的介護を、安全・安楽・自立に配慮して実施することができる。他職種の役割を知り、医療・福祉の連携の方法を理解する。専門職としての基本的な態度を身につける。 | 介護老人保健施設、介護老人福祉施設、障害者総合福祉法における入所施設 |
| 介護実習Ⅱ | 介護実習Ⅰ(1~2)で学んだことを基礎に介護実習を総合的に学ぶ。介護過程の展開を学ぶ。施設サービス全般を理解する。チームの一員としての役割を学び、専門的援助行為や態度を形成する。利用者の生活の質が向上するための援助ができる。 | 介護老人保健施設、介護老人福祉施設、障害者総合福祉法における入所施設 |

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

研修は、職員に現在就いている職又は将来就くことが予想される職の職務と責任の遂行に必要な知識、技能等を修得させ、その遂行に必要な職員の能力及び資質等の向上を図る。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成25年10月1日現在

| 名 前 | 所 属 |
|--------|-------------------------------|
| 植村 民樹 | 社会福祉法人永甲会 総合福祉施設 かすみの里 |
| 早川 昌宏 | 社会福祉法人長寿会 特別養護老人ホーム シルバーピアかりや |
| 佐野 明子 | 京ヶ峰 岡田病院 |
| 鳥山 喜之 | 医療法人桂名会 木村病院 |
| 星野 茂 | 蒲郡市民病院 |
| 後藤 博 | (保護者)(株)カッセイシステム |
| 三輪 大輔 | 医療法人純正会 デイサービスセンター太陽 |
| 太田 幸二 | 医療法人真善会 神尾外科 |
| 熊崎 正実 | あいち福祉医療専門学校 |
| 伊藤 真二 | あいち福祉医療専門学校 |
| 杉村 行雄 | あいち福祉医療専門学校 |
| 水谷 優子 | あいち福祉医療専門学校 |
| 土田 徹 | あいち福祉医療専門学校 |
| 筧 重和 | あいち福祉医療専門学校 |
| 豎山 陽一 | あいち福祉医療専門学校 |
| 山本 誠 | あいち福祉医療専門学校 |
| 飛田 いく子 | あいち福祉医療専門学校 |
| 下里 充 | あいち福祉医療専門学校 |
| 矢島 親男 | あいち福祉医療専門学校 |

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://fukushi-iryo.denpa.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://fukushi-iryo.denpa.jp/>

授業科目等の概要

| (教育・社会福祉専門課程 介護福祉学科) 平成25年度 | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------------------|------------------|------------------------|---|---------|----------|---------|--------|--------|--------------------------------------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時数 | 単 位数 | 授業方法 | | |
| 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実 験 ・ 実 習 ・ 実 技 |
| ○ | | | 人間の尊厳 と自立 | 介護福祉士が狭い経験や専門性のみ に依拠せず、広く人間をとらえ、謙 虚に学び続ける基礎とする。そして、 そのうえに“福祉の目”を育てるため に、人間の尊厳の保持と自立・自律し た生活を支える必要性、介護における 倫理的課題について考えさせる。 | 1 前 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | 人間関係と コミュニケ ーション | 人間の心理学的理解から人間関係の 心理、人間関係形成のプロセスを概観 し、居宅、および入所施設における介 護福祉士の活動の場に観る人間関係 を知り、コミュニケーションの構成要 素、態様を捉え、技法演習を通して自 らのコミュニケーション能力を認識 する。 | 1 後 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | 社会の理解 I | 自立の多様な側面、あるいは自立をキ ーワードとして個人と社会の関係を 考える。諸制度を知識としてまとめる だけではなく、介護福祉士が日常の職 業生活を営むうえで必要となる実践 的知識を提供する。 | 1 前 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | 社会の理解 II | 自立の多様な側面、あるいは自立をキ ーワードとして個人と社会の関係を 考える。諸制度を知識としてまとめる だけではなく、介護福祉士が日常の生 活を行ううえで必要となる実践的知 識を提供する。 | 1 後 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | 老人福祉論 | 老人福祉は児童福祉、障害者福祉とと もに福祉の3本柱の一つである。今後 ますます65歳以上の高齢者が増加 すると予測されている。老人福祉に従 事する者として、わが国の高齢者問題 を熟知し、高齢者に対する法と諸施 策、支援の体系について学ぶ。 | 1 後 | 30 | | ○ | | |

| | | | | | | | | |
|---|--|---------|---|--------|----|--|---|--|
| ○ | | 情報処理Ⅰ | 社会常識となりつつあるパソコン知識を習得し、「情報」を活用するための操作（オペレーション）を主とし、オペレーション技術の到達とWeb利用の基礎を学び、情報活用の基本的知識と技能を習得する。 | 1 前 | 30 | | ○ | |
| ○ | | 情報処理Ⅱ | 介護福祉士の実践研究におけるデータ活用のため、統計学の活用を学ぶ。簡単な関数を使用してデータベース概念の一端を演習を通じて習得。各種研究発表の場面で活用できるようにする。 | 2 後 | 30 | | ○ | |
| ○ | | 音楽 | 介護現場或いは日々の生活の中で音・音楽を通して高齢者とのコミュニケーションを学ぶ。 | 1 前 | 30 | | ○ | |
| ○ | | ビジネスマナー | 介護・福祉の分野、又一般的なビジネスマナーの基本を修得する。人の心と人間関係を高めるコミュニケーションの基本を学び、働く意識・社会人として必要なマナー・コミュニケーションの基本を学ぶとともに、接遇の基礎を学ぶ。 | 1 前 | 30 | | ○ | |
| ○ | | 医学一般 | プロの介護者として正しい医学情報把握により保健医療従事者と連携がとれるだけの医学知識を身につけるため、人体の基本的な構造や機能、代表的な疾患に関する概要を理解するとともに、保健医療に関する基礎知識を理解する。 | 1 後 | 30 | | ○ | |
| ○ | | 介護概論Ⅰ | 介護、福祉分野の範疇にとどまらず、「人間が生きて生活する」という基本的な意味と仕組みを理解し、人間・社会・健康など包括的、総体的に捉えることができるように幅広い知識と解釈を提供する。 | 1 前 | 30 | | ○ | |
| ○ | | 介護概論Ⅱ | 介護福祉の基盤となる生活の支援において、「生きがいのある生活」とは何かを理解し、その生活の経営と管理について考え、対象並びに介護者の安全に配慮した介護実践の方法を習得する。 | 1 後 | 30 | | ○ | |
| ○ | | 介護概論Ⅲ | 介護福祉サービスの提供に関わる他の職種との連携をスムーズに行うためそれぞれの制度の仕組みを理解し、対象に最適のサービス提供を実現するための知識・技術を習得する。 | 2 前 | 30 | | ○ | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|--|--------------------|---|--------|----|--|---|---|--|
| ○ | | | リハビリテーション論 | リハビリテーションの理念を理解し、援助技術としてのケアとの接点について学ぶ。さらに、自立にむけた介護を支援するリハビリテーションとの関係性についても学ぶ。 | 2 前 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | レクリエーション活動 援助法Ⅰ | 福祉レクリエーション活動の知識やその方法等を具体的に身に付け、介護福祉での実践に役立てることを目指す。 | 1 前 | 30 | | | ○ | |
| ○ | | | レクリエーション活動 援助法Ⅱ | 演習を中心にレクリエーション実践し、グループおよび個人での取り組みとその評価まで行い、施設実習で実施展開する。 | 1 後 | 30 | | | ○ | |
| ○ | | | コミュニケーション技術Ⅰ | 人間関係の形成と実践技術としてのコミュニケーション技術の修得をねらいとする。 | 2 前 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | コミュニケーション技術Ⅱ | さまざまな障害形態と、障害形態に則したコミュニケーションの方法を学ぶ。当事者からの声を聞くことで、介護福祉士としての視野を広げ障害者への理解を深める。 | 2 後 | 30 | | | ○ | |
| ○ | | | 家政学概論 | 生活とはどのように構成されているかを知ることから、衣食住全般にわたり基礎的な理解ができるようにする。 | 1 後 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | 家政学Ⅰ (住居) | 介護の基本である“人間”と“生活”について、その本質を理解できるようになる。地域と居住環境を学ぶことにより、地域で暮らし続けることの意義を学ぶ。 | 2 前 | 30 | | | ○ | |
| ○ | | | 家政学Ⅱ (栄養・調理) | 栄養に関する基礎知識を学び、基本的な調理方法を学ぶ。包丁の持ち方からはじまり、食材の扱い方、切り方、食事の嚥下困難な方への食材の工夫を実習を通して学ぶ。自立に向けた食事介護への視点を養うことも大きな目的である。 | 2 後 | 30 | | | ○ | |
| ○ | | | 家政学Ⅲ (衣生活) | 介護の基本である“人間”と“生活”について、その本質を理解できるようになる。衣生活がどのように行われているかを学ぶことから、QOL向上を目指す意義を学ぶ。 | 1 前 | 30 | | | ○ | |
| ○ | | | 生活支援技術：移動 | 移動とは、単に空間から空間への移動を助けるものではない。単純な移動動作の中に、利用者の現存する能力を自ら発揮できる援助方法を学ぶ。 | 1 前 | 30 | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|--|----------------------|--|----|----|--|---|---|--|
| ○ | | | 生活支援技術：食事 | 食事は生命を維持するためだけではなく、他者との交流の場であったり一日の生活リズムを作ったり、精神的にも生活の充実を図ることができる。楽しく安全な食事ができるように障害に合わせた食事介助ができるようになる。 | 1前 | 30 | | | ○ | |
| ○ | | | 生活支援技術：入浴・清潔保持 | 身体を清潔にすることは生理機能を高め、気分を爽快にするだけでなく他者との関わりや社会参加においても重要である。その人らしい生活の維持のため身体状況に合わせた自立支援を考えた援助ができるようになる。 | 1後 | 30 | | | ○ | |
| ○ | | | 生活支援技術：排泄 | 生命維持に欠くことのできない排泄のメカニズムを知り精神や身体に与える影響を理解する。排泄障害の違いや利用者の方の状況に合わせて自尊心や羞恥心に配慮した介助ができる。 | 1後 | 30 | | | ○ | |
| ○ | | | 生活支援技術：睡眠・身じたく | 身支度の意義、その人らしい自己表現から社会性の回復への援助方法を理解していく。 睡眠支援を通して利用者の生活の質の向上を目指した援助方法が理解できる。 | 2前 | 30 | | | ○ | |
| ○ | | | 生活支援技術：終末期の介護 | 終末期における尊厳を持った人としてかかわることを理解でき、終末期における身体状況を理解した適切なケアができる。 | 2後 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | 生活支援技術：介護予防とレクリエーション | 介護の基本である“人間”と“生活”についてレクリエーションを通して、その本質を理解できるようになる。また、介護予防の視点から生活支援を考える。 | 2前 | 30 | | | ○ | |
| ○ | | | 介護過程Ⅰ | 介護過程の意義、目的・目標を知る。情報収集とアセスメント、課題の設定を知る。ICFの考え方を学ぶ。 | 1前 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | 介護過程Ⅱ | ニーズの把握・課題の分析ができる。情報の分析を学ぶ。介護シミュレーション作成の計画・修正を行う。 | 1後 | 30 | | | ○ | |
| ○ | | | 介護過程Ⅲ | 介護過程を展開させシミュレーションの計画作成をする。シミュレーション作成の計画・修正を行う。 | 2前 | 30 | | | ○ | |
| ○ | | | 介護過程Ⅳ | 受け持ち利用者の介護過程を展開させる。計画の修正の意義を理解する。 | 2前 | 30 | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|--|---------|--|--------|-----|--|--|---|---|
| ○ | | | 介護過程Ⅴ | 利用者の個別性に応じた計画作成の意義を学ぶ。演習を中心とし、実習中に担当した利用者の介護計画の評価・見直しをする。 | 2 後 | 30 | | | ○ | |
| ○ | | | 介護総合演習Ⅰ | 介護実習への心構え、予備知識、動機付け等の準備を行い、介護実習中に実践力を身につけるようにする。実習後は、振り返りを十分に行いより効果的な介護実習とする。地域に密着した通所施設、小規模多機能型居宅介護で、支援を受けながら生活をしている方への自立支援を理解する。 | 1 前 | 30 | | | ○ | |
| ○ | | | 介護総合演習Ⅱ | 介護実習Ⅰで学んだことを基礎に、各自の振り返りと実習報告を行う。自分の課題の抽出、明確化を図り、次の実習に向けての準備をする。また、認知症対応型共同生活介護での「その人らしい」生活を理解する。 | 1 後 | 30 | | | ○ | |
| ○ | | | 介護総合演習Ⅲ | 介護実習Ⅰ(1,2)で学んだことを基礎に、入所施設で行われる実践的介護技術の修得を目指す。安全性や個別性に留意した支援を学ぶことにより、自立支援を目指すためには何が必要であるかのアセスメントができる力をつける。 | 2 前 | 30 | | | ○ | |
| ○ | | | 介護総合演習Ⅳ | 介護実習Ⅰ-3で学んだことを基礎に、個別性に応じた介護過程の展開を図る。安全性や個別性に留意した支援を学ぶことにより、自立支援を目指すためには何が必要であるかの分析ができる力をつける。居宅で暮らす人への理解を深める。 | 2 後 | 30 | | | ○ | |
| ○ | | | 介護実習Ⅰ-1 | 講義、演習、実技実習で学んだ知識や技術を用いて、施設で生活されている利用者の介護の実際を行う。利用者とのコミュニケーションをとり、援助関係を構築して利用者の介護ニーズを捉え、基本的な介護を行えるようにする。 | 1 後 | 131 | | | | ○ |
| ○ | | | 介護実習Ⅰ-2 | 利用者の個別性に応じた基礎的介護を、安全・安楽・自立に配慮して実施することができる。他職種の役割を知り、医療・福祉の連携の方法を理解する。専門職としての基本的な態度を身につける。 | 2 前 | 156 | | | | ○ |
| ○ | | | 介護実習Ⅱ | 介護実習Ⅰ(1~2)で学んだことを基礎に介護実習を総合的に学ぶ。介護過程の展開を学ぶ。施設サービス全般を理解する。チームの一員としての役割を学び、専門的援助行為や態度を形 | 2 後 | 165 | | | | ○ |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|--|------------------|---|----|----|--|---|--|--|
| | | | | 成する。利用者の生活の質が向上するための援助ができる。 | | | | | | |
| ○ | | | 発達と老化の理解Ⅰ | 自分の置かれた立場だけで物事を考える狭い視野の若者が増えている昨今、介護を専門とする援助者として、現場で支援を必要とする人たちが、どのような時代背景と心理的背景で生きてきたのかを洞察できるよう、人間の誕生から老後に至るライフサイクル（過程）での基本的な心理的機能・発達課題を理解する | 2前 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | 発達と老化の理解Ⅱ | 老化によって発生する心理的な諸問題を理解していく中で、援助者として高齢者の心の動きに重点をおいた対応の仕方について学んでいく。 | 2後 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | 認知症の理解Ⅰ | 医学的側面からみた認知症の基礎を理解したうえで、認知症支援のありかた、方法を認知症支援（介護）の理念を基に理解する。 | 1後 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | 認知症の理解Ⅱ | 認知症に伴う心と体の変化と日常生活を理解し、各機関との連携や支援方法を認知症の種類、進行別事例を基に理解する。 | 2前 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | 障害の理解Ⅰ（精神の保健と障害） | 現在は、障害の有無に関わらず、精神的に不健康な状態に陥りやすい社会であると言われている。そのような中、身近で様々な方たちと触れ合う介護職は、体の不調のみならず、心の状態にもいち早く気づくことが可能であり、その対応を期待される職種であるとする。そのための基本的知識の習得をめざす。 | 2後 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | 障害の理解Ⅱ | それぞれの障害の病態生理を理解し、安全で安楽な介護方法や残存機能を活用した自立支援の援助方法を学ぶ。それぞれの障害者の擬似体験を通して生活のしづらさを理解する。 | 1後 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | 障害の理解Ⅲ | それぞれの障害の病態生理を理解し、安全で安楽な介護方法や残存機能を活用した自立支援の援助方法を学ぶ。それぞれの障害者の擬似体験を通して生活のしづらさを理解する。事例検討を通して、それぞれの障害にあった援助計画が立案でき、それに基づいた援助方法が理解できる。 | 2前 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | 障害の理解Ⅳ（聴覚障害） | 初めて手話を学ぶ人たちのために、基本的な手話のなりたちや日常会話を学んでいく。また、単に手話技術だけに目を奪われるのではなく、ろうあ者 | 2後 | 30 | | ○ | | |

| | | | | | | | | | | |
|----|--|--|--------------|--|-----------|----|-----|---|--|--|
| | | | | の暮らしについても学習を深めていく。 | | | | | | |
| ○ | | | 心理学 | 心理学の基礎的側面を学習することにより、高齢者や障害者（児）だけでなく、人間全体の心のあり方を理解する。 | 1 前 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | からだのしくみ | 人間という存在は最も身近である一方、あらゆる面で最も不可解な対象でもある。容易に理解し難い人間を対象として活動する介護において、人間をどう読み解いていくか、そのために人間のこころとからだの基本的な意味と仕組みに関する基礎知識および視点と考え方について学習する。 | 1 前 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | こころとからだのしくみⅠ | 日常生活の多様な活動において、それぞれの目的に応じたこころとからだの働きを知り、「介護」と関連させて理解する。 | 1 後 | 30 | | ○ | | |
| ○ | | | こころとからだのしくみⅡ | こころとからだのしくみの基本を理解し、具体的な日常生活の場面と関連させ、介護実践に活かせるように応用力を培う。 | 2 前 | 30 | | ○ | | |
| 合計 | | | | 53科目 | 1952単位時間(| | 単位) | | | |